

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2022

団体名 多摩大学梅澤佳子ホームゼミナール
メンバー ○徳永賢人(3年)、山口紗恵子(4年)、岩田柚菜、大谷彩花、陸彩菜、近藤海優、齋藤純白、中村優貴、西野伸(3年) 雨宮永大、上江洲安輝、大串慶斗、小嶋伶、近藤直希、清水寛太、鈴木達也、田邊心、徳常生吹、酉田凌馬、堀勇斗(2年)

①事業内容

本事業は八王子市高齢者あんしん相談センター旭町(以下、センター)、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員(以下、民生委員)・協力員、有志と学生が協働して駅前という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。PJは「世代間交流」をキーワードに高齢者の健康寿命の一助となることを目的とし高齢者が自然体でゆったりと過ごすことができる「みんなのゆったりサロン」を心がけている。サロンは2016年より4年間で36回運営してきたが、COVID-19の影響で2020年2月から一時休止となった。そこで2020年から新規事業として通信の発行、葉書による交流、オンラインによる高齢者サロンの仕組みづくりを進めた。その後、不定期開催を経て定期開催となり2023年1月に第46回を迎えることができた。※これまでの事業の詳細については、2016年から2021年までの「学生企画事業補助金事業報告書」をご参照いただきたい。

②実施報告

ア.「駅前サロン通信」の発行(3年目継続)

コロナ禍でサロンが休止となる中、高齢者の方々の状況が心配になった。そこで、皆様との繋がりを保つことを目的として「駅前サロン通信」の発行を開始した。通信は3年間継続し2022年2月号が第33号となる。

2022年度の表紙は外出が儘ならず、食が細くなりがちな高齢者の皆様に季節の食材と料理、行事の写真を取り入れた。また、日付感覚を持って頂けるよう「今日は何の日?」を掲載して

いる。サロンが再開したことから、サロン開催日を記載できるようになったことが何より嬉しい。「コロナ禍で病院の予定くらいしかない高齢者にとっては良い刺激になる。」と皆様から好評を頂いている。

2頁目はゼミ生の近況報告と高齢者へのメッセージを記載。対面で交流することができない中でゼミ生も代替わりし、会ったことがない学生も多くなったことから、今年度は私たちが知ってもらうことを目的にQRコードを用いた動画配信「学生紹介」、「学生生活紹介」を開始した。取り組みは、昨今テレビでも採用を始めたQRコードに慣れてもらう事も目的としている。



※「駅前サロン通信」2023年2月号 表紙・2頁目

3頁目は連携団体の皆様に原稿を頂いている。本PJは皆で協働して運営しているので、通信も全員参加で作成したいと考えたからである。

今年度は大学コンソーシアム八王子職員の紹介により、同じく「学生企画事業補助金」採択事業を行う山野美容芸術短期大学(以下、山短)の活動を「駅前サロン通信」11・12月号で紹介した。今後他大学の記事を紹介するなど連携を意識していきたいと考えている。

4 頁目は脳トレである。読むだけではなく頭を使い楽しんで頂けるよう工夫している。学生オリジナルクイズを掲載することもある。

イ. 駅前サロンの再開、新たな取り組み

2021 年秋から COVID-19 の感染状況をみて不定期に開催していたサロンであったが、ワクチン接種も進んだことから、6 月からは定期開催に戻すことになった。しかしながら対象者が高齢であることから、6 月の第 39 回は大学と八王子の会場をオンラインで繋ぐオンラインサロンとした。昨年から取り組んだオンラインの仕組みづくりでは、高齢者の視力・聴力の低下、機器の取り扱いの難しさなどに気づくことができた。会場と大学の一体感を作るためのクイズの作り込み、タイムラグ対策など様々な課題を解決する中で学ぶことが多々あった。

第 40 回 (7 月) からは連携団体の皆様が広い会場を探して下さり場所を移したことで、対面サロンに戻して開催している。以前の会場は、20 名程度で収容出来たが、COVID-19 による人数制限下参加者、運営側共に 5 名程度に絞らなければならなくなりましたが、会場が広がったことでこの問題は解決した。第 40 回からは参加者数を制限することもなくなり、ゼミ生もこれまでの 3 名から 5~6 名に増やして運営や交流にあたれるようになった。

会場には大型スクリーンやマイクが設置されているため、企画する内容も幅が広がった。「駅前サロン通信」QR コードの動画を大型スクリーンで再度写し、スマートフォンをお持ちでない方にも視聴していただき、学生と一緒に楽しんで頂くことができるようになった。QR コードの使い方に不慣れな方への勉強会も行っている。また、学生が企画するゲームやクイズなども体を大きく動かしながら楽しんでもらえるようになった。以前はセンター職員が担当して下さっていたお帰りの際の動き出しを助ける体操も学生が準備し担当するようになった。

COVID-19 の影響を受けて起こった様々な課題を解決することにより、サロンはより充実した内容になり、参加者、連携団体の皆様に大好評である。

③感想、今後の展開について

駅前サロン通信の新たな取り組みである QR コードによる動画配信は「YouTube を観ているよう」「学生さん、学生生活がわかって嬉しい」というお言葉を頂いている。新たに加わった 2 年生のことを知って頂くことができた。

また、駅前サロン通信で紹介した山短のイベントに参加したという報告を参加者の方から葉書で頂いた。駅前サロン通信 3 頁目、連携団体の皆様からの地域イベント紹介については、「外出するきっかけになっている」というお言葉を皆様から頂いている。

2 年をかけた高齢者にやさしいオンラインの仕組みづくりは、対面サロンにはかなわないが、外出できない方が家庭からサロンに参加し、社会とのつながりを築いていくことに展開できる。在宅高齢者と医療・福祉・介護を繋ぐことにも応用可能ではないかと考えている。実際に、在宅診療を行う市内のクリニック職員が関心を向けて下さり説明を行った。また、コロナ禍で実行できずにいた他大学の学生によるサロンの展開は、他大学の教職員が興味を持って下さり説明することができた。また、八王子 e まちサミット (認知症にやさしいまちづくり) の運営ボランティアに参加することなどを通じて他団体との連携を広げている。

謝辞

長年にわたり本プロジェクトにご支援、ご協力頂いております八王子市高齢者あんしん相談センター旭町、八王子市民生委員・児童委員協議会第 4 地区民生委員・協力員、有志、大学コンソーシアム八王子、八王子市高齢者いきいき課の皆様にご心よりお礼申し上げます。